



# 経営規模拡大、法人化、6次産業化 思い描く農業経営を一つ一つ実現

米麦、果樹、野菜の複合経営 藤光町 岡 光輝 さん (39歳)

## 幼い頃から慣れ親しんだ農業

「小さい頃から農作業を手伝い、自分が農業を継ぐと思っていた。」と語る岡光輝さんは、久留米筑水高校生物工学科に進学、農業生産やバイオテクノロジーなどの基礎を学び、卒業後すぐに「岡光照園」に就農しました。

## 常時雇用の導入と経営規模拡大、そして法人化

就農後は、梨部門を任されていたが、5年前に経営移譲を受け、経営者になりました。「農地集約と規模拡大が必要」との思いから、常時雇用を導入。現在は、米麦40ヘクタール、梨40アール、ぶどう50アールと露地野菜を経営しています。

常時雇用の導入がきっかけとなり、博多蕾菜(つぼみな)とキャベツの生産を開始、農閑期を無くすことで経営と雇用の安定を目指しています。また、規模拡大とともに、米の一部は自家乾燥をして、自ら販売先の開拓を行っています。「直接販売は大変だけれども、消費者から『おいしい』という言葉が直接聞けることが励みになる。」と話す光輝さん。さらに、「今後も米麦の規模拡大をしたい。法人化することで、より対外的な信用の獲得と従業員の家庭を守っていきたい。」と熱い思いを語ってくれました。

## 経営者としての挑戦

昨年夏、市主催の6次産業化交流会に参加したことをきっかけに、6次産業化に取り組みはじめ、ぶどうの規格外品を利用したピュールによる加工品開発などを考えています。

「今後も、挑戦を続ける。」と話す光輝さんは、良いと思うことは、直ぐに行動し、経営者として思い描く農業経営を一つ一つ実現しています。

